

今月の表紙

園芸生産拡大支援事業を 活用したアスパラガスの 出荷が本格スタート



管内アスパラガス農家の畑では3月下旬から、日の出とともに本格的に収穫作業が始まっています。

遊佐町小原田の佐藤俊輔さんはJAの「園芸生産拡大支援事業」を活用し、アスパラガスの雨避けハウスを昨年5月に建て、同年6月に苗を定植。今年から本格的に出荷がスタートしました。

4月19日には、佐藤さんが夜の明けきらないうちから収穫を開始。ハサミと出荷規格の長さ26cmの印の付いた棒を手に、定植した株ごとにどれを収穫し、どれを残すか瞬時に判断し、次々とコンテナに入れました。

佐藤さんは「雨避けハウスで収穫を迎えることができうれしい。今後はアスパラガスのハウスを増やし、水稲との複合経営を安定させたい。なにより早く一人前になりお世話になった人達に恩返しをしたい」と未来を見つめる目は輝いていました。

管内の平成30年産アスパラガスは26人が作付けし、面積は約3・1ha。収穫は10月上旬まで続き、主に関東や県内市場に出荷します。



▲園芸生産拡大支援事業で建てた雨避けハウス



▲日の出とともに収穫開始



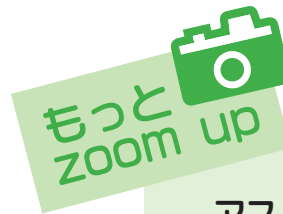
▲午前9時、アスパラガスを選果場にばら出荷する佐藤さん

みどり

2018 No.289

CONTENTS

- 02 表紙紹介
- 03 組合長が聴く！
- 04 ニュース&トピックス
- 08 営農のしおり／園芸だより
- 09 園芸生産拡大への道／Pick up items
- 10 女性大学学生募集／みどりちゃんの共済講座
- 11 みどりサービス通信
- 12 みんなのふれあいひろば／読者からのおたより
- 13 ベジタブルライフ／健康百科
- 14 クロスワードパズル／お米を食べよう！レシピ
- 15 インフォメーション／理事会だより
- 16 ふれあい食材



アスパラガスの選別機が大活躍

遊佐園芸センターの、アスパラガスの選別機がフル稼働し、ばら出荷に対応しています。生産者が行っていた根本のカットや結束などの調製作業をJAが代行して行うことで、複合経営を支援。「農業者の所得増大」と「農業生産拡大」を図ります。



▲選別、軽量、結束をJAが代行しています